

2026 年度

国 語

(3 期)

(答はすべて解答用紙に記入すること)

(時 間 50 分)

番 号		氏 名	
--------	--	--------	--

清泉女学院中学校

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号をふくみます。)

この世に存在するものには、すべてサイズがあります。大きかったり小さかったり、長さや高さ、重さで測ることができるのです。そうやって物事は区別されています。

A それは、人間自体がサイズを持った生き物だからでしょう。そしてそのサイズは基本的に変わることはありません。ゾウは大きな生き物で、アリは小さな生き物なのです。

B 、どうでしょう？ もしそのサイズが変えられるとしたら。 C 、ゾウがアリのようになり、アリが人間と同じくらいのサイズになったら。

① それを実現してくれるのが、「スモールライト」です。とりわけ人間は大きなものを小さくしたいという欲望があります。おそらくそれは人間の尊大さに関係しているでしょう。私たちは、生き物の中で必ずしも最大とはいえないにもかかわらず、生き物の頂点に君臨している存在です。だから気持ちのうえで、ほかの動物よりも大きくありたいと思っていたとしても不思議ではありません。

『ドラえもん』の話の中では、ライトを照射してなんでも小さくしてしまうスモールライトによって、ゾウはポケットに入るくらいのサイズになり、人間はアリと同じサイズにまで小さくなりました。

ただ、なにかを小さくするのにはちゃんと理由があります。ゾウを小さくしたのは、そのゾウを救うためです。戦時中殺処分を受けそうになったゾウを小さくして、故郷のインドに送り返したのです。ゾウは大きいのが特徴ですが、そのためにひとたび問題が生じると扱いに困ることがあります。もしそれがポケットに入るサイズになれば、なんともありませんよね。

アリもそうです。この場合はアリを小さくしたのではなくて、小さなアリたちとコミュニケーションを取るために、のび太たちの方が小さくなつて巣にもぐりこんだのです。しずちゃん^{しずちゃん}の胃の中に入るために潜水艦^{せんすいかん}ごと小さくなったのも、彼女が誤飲した宝石を取りに行くためでした。

日本には昔から小さいことはいいことだという考え方があります。これは「小さきもの」を愛^めでた X の『枕草子』以来、ずっと語り継がれてきた日本の美意識だといってもいいでしょう。今ではそれは「かわいい」という言葉で表現されています。

現代でも、小さいものはかわいいとか、優^{すぐ}れているとして、肯定的に受け止められます。おそらく小さなものは、この小さな島国において、よ利便性が高いからでしょう。その証拠に、小さいものを良しとする物語は歴史上も事欠きません。『古事記』などに登場する国造りの立役者スキナビコナノミコトから、 Y まで。日本では小さいことはいいことなのです。

だからスモールライトは、いつも **Z** に描^{えが}かれています。小さくなって得をしたとか、面白い体験^{おもしろ}をできたとかいうように。これは私たちの日常を見てみてもわかると思います。小さくするからかわいいとか、小さくするから持ち運べるとか、小さく切るから食べられるとか。先ほどのしずかちゃんの胃の中に入って彼女を救ったという例は、現代のカプセル内視鏡を先取りするものといえます。

③こうした発想は、実際には小さくできない物事にも当てはめることができます。小さくできたらと考えるということです。つまりそういう視点で見ることによって、対処が可能になるのです。その意味で、スモールライトとは文字通り小さく見えるような物の見方を提示するスキルといっているでしょう。

たとえば問題の解決でも、手に負えるサイズに分解して対処するという方法を取ることができます。いわば小さくするのは生きる知恵^{ちえ}でもあるわけです。私たちは物事を小さくすることで手に負えるサイズに変換^{へんかん}し、夢をかなえているのかもしれない。

(小川仁志^{おがわひとし}『ドラえもん』で哲学^{てつがく}する」より一部改変)

問一 **A** **C** に入る言葉としてもつともふさわしいものは何ですか。次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし、それ

ぞれの記号は一度しか使えません。)

ア おそらく イ むしろ ウ つまり エ でも オ だから

問二 — 線①「人間は大きなものを小さくしたいという欲望があります」とありますが、筆者はなぜそうだと考えていますか。もつともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間は、科学技術によって、不可能と思われることを何でも可能にしたいという欲求を持っているから。

イ 人間は、地球上の生き物の中で、必ず一番にならなければならないという使命を常に持っているから。

ウ 人間は、大きなものを小さくする能力を得ることで、地球上の生き物の頂点に君臨しようとしているから。

エ 人間は、その尊大さゆえに、気持ちのうえでは、他の動物よりも大きくありたいという思いを抱^{いだ}いているから。

オ 人間は、大きいものを小さくするという発想が、科学技術を発展させるうえで重要なことだと考えているから。

問三 ―線②『枕草子』以来、ずっと語り継がれてきた日本の美意識だ』について、次の問いに答えなさい。

(1) 「日本の美意識」を表している部分を、本文から十一字でぬき出して答えなさい。

(2) なぜこのような「日本の美意識」が生まれたと、筆者は考えていますか。もっともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 小さな島国に住む日本人は、ものは小さい方が便利であると感じてきたから。

イ 日本の昔話の中で、小さいものを良しとする考え方が語り継がれてきたから。

ウ 長い歴史の中で、日本人は小さいものはかわいいと刷り込まれてきたから。

エ 日本人は、本能的に小さいものはすばらしいと感じることが多かったから。

オ 日常生活の中で、小さくなって得をしたという成功体験を多く得てきたから。

(3)

X

には『枕草子』の作者があてはまります。それはどれですか。ふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 紫式部
イ 清少納言
ウ 兼好法師
エ 松尾芭蕉
オ 鴨長明

(4) 『枕草子』はいつの時代の作品ですか。ふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 奈良時代
イ 平安時代
ウ 鎌倉時代
エ 室町時代
オ 江戸時代

(5) 次の文は、筆者の主張と関連のある『枕草子』の一節の現代語訳です。

I

と

II

に入る言葉の組み合わせとして、もっともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

I

それはウリに描いた子どもの顔。スズメの子がチュッチュツというとはねて来ること。二つか三つの子どもが、急いではいはいして来るときに、ほんの小さなごみがあつたのをめざとく見つけて、小さな指でつまんで、大人などに見せているしぐさ。おかっぱ頭の子どもが、目に前髪がかかるとのかき上げないで、ちよつと頭をかしげて、ものを見たりしているしぐさ。それほど大きくはない貴族の子どもが、美しい衣装を着せられて歩く姿。きれいな赤ん坊がちよつと抱いてあやしてかわいがっているうちに、抱きついて寝てしまったようす。人形遊びの道具。ハスの葉のとても小さなものを、池の中から取り上げたもの。アオイの葉っぱのとても小さいもの。なにもかも、

II

(『枕草子』一四六段 訳は本校国語科による)

ア I かわいらしいもの

II 小さなものはみな、かわいらしい

イ I 美しいもの

II 私の好きなものはみな、美しい

ウ I 小さいもの

II 小さなものはみな、はかない

エ I 好きなもの

II 私の好きなものはみな、面白い

オ I 優れているもの

II 小さなものはみな、優れている

問四

Y

に入る言葉として、もっともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 桃太郎

イ 金太郎

ウ 浦島太郎

エ かぐや姫

オ 一寸法師

問五

Z

に入るふさわしい言葉を、本文から三字でぬき出して答えなさい。

問六 ―線③「こうした発想」とありますが、その発想によって生じた出来事として、ふさわしくないものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 初期のコンピュータは部屋全体を埋め尽くすほど巨大でした。しかし、コンピュータの小型化が進み、パソコンの普及へとつながりました。またコンピュータを個人が所有できるようになり、社会のあらゆる場面で活用されるようになりました。

イ 携帯電話はかつては肩から掛けるほど大きかったショルダーホンから、ポケットに収まるスマートフォンへと進化しました。持ち運びやすさが格段に向上したことで、いつでもどこでも誰とでも繋がるようになり、私たちのコミュニケーションやライフスタイルを根底から変えました。

ウ AIは、学習するデータの量が多ければ多いほど、その精度が向上します。例えば、たくさんのお医者さんの医療画像をAIに学習させることで、人間では見逃してしまうような病気を早期に発見できるようになります。天気予報や自動翻訳の精度向上も、大量のデータ分析によって実現されています。

エ ものを減らすことで、掃除や管理の手間が省け、時間や心に余裕が生まれることがあります。情報過多の現代において、物理的なものだけでなく、人間関係や情報も整理することで、より本質的なことに集中できます。

オ 大きくて複雑な問題に直面したとき、一度に解決しようとするのと圧倒されてしまいます。しかし、その問題を分解していくと、一つひとつは簡単に処理できるものになります。例えば、「部屋全体を片付ける」という大きな目標を、「まず机の上だけ片付ける」「次に本棚を整理する」といったステップに分けることで、目標を達成しやすくなります。

カ コンテナ船やタンカー、旅客機など、一度に運べる物資や人の量を増やすことで、輸送コストを大幅に少なくできます。これにより、世界中のものが安価に行き来できるようになり、グローバル経済を支える基盤となっています。

問七 次の中で、本文の内容に合うものには○を、合わないものには×と答えなさい。

- (1) この世に存在するものには、すべてサイズがあり、長さや高さ、重さで測ることによって、物事を区別している。
- (2) ゾウがアリのように小さくなり、アリが人間と同じくらいのサイズになったら、という願望を誰もが持っている。
- (3) ゾウは大きさゆえに様々な問題があるが、ポケットに入るサイズにできれば、飼育上のあらゆる問題を解決できる。
- (4) 先人たちは「小さいこと」の優位性を後世に伝えるため、『古事記』や『枕草子』などの多くの物語を作り出してきた。
- (5) 実際には小さくできない物事でも、見方を変え、小さくできると仮定することで、問題解決につながる可能性がある。
- (6) 生きる知恵として、私たちは様々な問題の解決において、手に負えるサイズに変換して、対処することがある。

問八

――線「スモールライト」は、懐中電灯とそっくりな形で、物体を小さくするために用いる道具です。現在、日本や世界には様々な社会問題が存在します。もし「スモールライト」があれば、あなたはそれをどのように使い、問題を解決しますか。問題を一つ取り上げ、自分のアイデアを説明しなさい。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号をふくみます。)

四時間目の授業が終わって、音楽室から五年二組の教室にもどる途中のことだった。

理科室の前に置かれた水槽の周りに、同じクラスの今野たち四人が集まっているのが目に入って、ぼくは思わず立ち止まった。

飼育委員のぼくとちがって、みんなは金魚に興味なんてないはずなのに、なぜか笑いながら赤や白のリウウキンがのんびりと泳ぐのをのぞきこんでいる。

今野がポケットから出した右手を水槽の上にのばすと、笑い声はギャハハッと大きくなって、

「こいつら消しカス食べるやん」

というのも聞こえた。どうやら今野たちは、水槽に消しゴムのカスを落として金魚をからかっているらしい。まるでエサでもやるみたいに。

みんなの体のすき間から、水面近くまでうき上がって口を動かす三匹の金魚が見えた。いちばんパクパクしているのは、ころんと太ったマルだ。

① 体中の血がずっと冷たくなるような気がした。

マルたちは食いしんぼうだし人になれているから、水面に指先が近づいて何かを落としたら、それを口に入れてしまう。もちろん、エサじゃないとわかればすぐに吐き出すだろうけど、まちがって飲みこむことがあるかもしれない。それに、水質だって悪くなる。

この春、ぼくが初めて飼育委員になったとき、担当の大谷のぼる先生は

「金魚は意外とⅠ な生き物やけん、エサは数分で食べきるほどしかやったらいかんよ。残ったエサで水がよごれると病気の原因になるし、

食べすぎると消化不良を起こして死んでしまうこともあるけん」

と教えてくれた。

だけどそれから数日たって、ぼくがエサやり当番になった週に、いちばん小さな金魚が死んだ。エサをやるうとして見たら、おなかを上に向けてⅡ ういていたのだ。あわてて水槽をたたいたり、水に手をつっこんでついついてみたりしたけれど、その体はもうⅢ も動かなかった。

先生は、

「新しく水槽に入れた子やけん、環境の変化についていけないかったんやろう。時田くんのせいやないよ」

と言ってくれたけど、ぼくは今でも、あれは自分のせいだったんじゃないかと思っている。自分の指先に集まってくる金魚たちがかわいくて、ついエサをやりすぎてしまった気がするのだ。

もう二度と、あんなふうになくなった金魚は見たくない。

だからそれからは、マルたちが食べすぎないように、ずっと気をつけている。図書室で金魚の飼い方の本を読んだり、パソコンで検索したりもした。大谷先生だって、定期的には過機のフィルターをかけた水をかえたりして、水質を管理しているのだ。

それなのに、わざと消しゴムのカスを落とすなんてひどすぎる。そう思ったら、すぐにでも今野の右手をつかんで水槽から引き離したくなった。でも、ぼくには、とてもそんなことはできないから、とにかく体中の勇気をふりしぼって、

「やめろよ」

と声をかけた。

ところが、今野たちはその言葉を、とかそこにいるぼくを軽く無視した。誰もふり向かないまま、消しゴムのカスをまた落とす。だから、いつもだったらぜったいにしないような言い方で、

「金魚がかわいそうやろ？」

と少し声を大きくすると、四人のうちの誰かが背中を向けたまま

「うっせーな」

とつぶやくのが聞こえた。

さつきは冷たくなった体中の血が、今度は熱くなっていく。ぼくの胸に、小さな怒りの火がついたみたいだった。

「そんなん食べたら、金魚が死ぬかもしれんやろっ」

自分でもおどろくくらい強い声でそう言う、今野はやつと顔を上げ、面倒くさそうにぼくを見ていったのだ。

「別にいいやん、金魚くらいと。」

は？　と思った。金魚くらいって、どういう意味だよ。

だけど、それを口には出さなかった。なぜなら次の瞬間、ぼくは今野に飛びかかっていたからだ。

「わっ、何すんだよ」

「落ち着け落ち着け」

「やめろつてば、時田っ」

ぼくを止めようとする声が聞こえたけれど、誰も割って入ってはこなかった。

音楽のあとだったから、ぼくの右手にはリコーダーがにぎられていて、それが今野の顔に強く当たってしまったらしい。らしい、という言い方しかできないのは、そのとき自分がどんなふうに暴れたのか、あまり覚えていないからだ。

さわぎを聞いて、理科室から飛び出した大谷先生が、

「うわっ、ここらここら」

と言いながら近づいてきて、ぼくの右腕を大きな手でつかんだときにはもう、今野は鼻血を出して床に座りこんで泣いていた。

ぼたぼたと廊下に落ちた血は、金魚の赤よりずっと濃い赤色だった。

ハッとして動きを止めたぼくの顔をのぞきこんだ大谷先生は、

「どうしたと？ 時田くんがこんなことをするなんて信じられん。何があつたと？」

と聞いたけど、^③ぼくは何も言わないまま目をそらした。

もともと人と話すのは得意じゃない。理由をうまく説明する自信なんてなかったし、それ以上何か言うと、ぼくも泣きだしてしまいそうだったから。

窓の外は雨だった。

水槽の中で、マルのうすい尾ひれがひらりと動いて、にせものの水草の後ろに隠れるのが見えた。

校長室の黒いソファは、深く腰かけると両足がういてひっくり返りそうになるし、浅く座ると背筋が妙な感じにのびて苦しい。しかたないから、ぼくは中途半端に腰かけたまま、ずっと下を向いていた。

あのあと、今野は保健の先生と一緒に病院に行くことになり、ぼくは校長室に連れてこられた。

「もう少ししたら、お母さんが来んしやるそうやけん、それまで食べて待つところ」

校長先生は、そう言って低いテーブルに給食のトレーを置いてくれたけど、ぼくは食べる気にならなかった。

人をなぐったのなんて初めてだ。しかも本気で。乱暴なことが苦手なぼくは、なぐり合いどころか口げんかすらほとんどしたことがない。この町の周辺を取材した『密着！福岡県警72時間』なんてテレビ番組や、クラスの何人かが話題にするネットの格闘技チャンネルもこわくて見られないほどだ。

それなのに、さっきは胸の中についた IV が急に大きな炎になって、気づくと今野に飛びかかっていた。

「こんにちは。六月一日、お昼の校内放送の時間です。今日は旬の食べ物についてのクイズを出しますので、みなさんも一緒に答えを考えてみてください」

ジブリの明るい曲をバックに、スピーカーから放送委員のはずんだ声が流れてきた。今頃教室のみんなは、班ごとに机をくつつけて楽しく給食を食べているはずだ。

そう思ったら、とても心細くてさびしい気持ちになった。④ ぼくは、まじめな働きアリの列から一匹だけつまみ出されたアリンコみたいだ。

「まあ時田くん、そんなにしょぼりしないで食べなさい。おいしいぞ、アサリのスパゲッティも、この……なんかわからん緑の汁も」

テーブルをはさんでぼくの向かいに座った校長先生が、給食を食べながらそう言ったから、ぼくも落ち着かない姿勢のままでブロッコリーのポタージュをちびちび飲んだ。

そのあとでアサリのスパゲッティも口にしたけど、ちっとも味を感じられない。それでもなんとか食べ終えて、またしばらくうつむいていたら、校長室の引き戸がゆっくりと開く音がした。

「時田さんがいらっしやいました」

と言いながら、担任の藤巻ゆり先生が入ってくる。続いて、息を切らした母さんの声も聞こえた。

「お世話に、なって、おります。時田真潮、の母、です」

学校から連絡を受けた母さんは、きつと仕事を途中でぬけて、ここまで自転車走らせてきたのだろう。クリーム色の雨合羽を着て、猛スピードで。

だけど、ぼくは顔を上げることができなかった。ただ上ぐつをはいた自分の足と、お客さん用の緑のスリッパをはいた母さんの足が並ぶのを見ていただけだ。

ぼくの横には母さんが、向かいには校長先生と藤巻先生が並んで座った。母さんからは、すん、と冷たい雨のおいがした。お茶を運んできた事務の先生が、テーブルに湯のみを置いたあと、給食のトレイを下げて出ていく。

しずんだ空気をふりはらうように、校長先生が

「急にお呼びしてすみません。お仕事の方は大丈夫ですか？」
と聞いたけど、

「そんな、こちらこそご迷惑めいわくをおかけして申し訳ありません。お友だちにケガをさせてしまうなんて、本当にたいへんなことを」と答える母さんの声は、いつもより低くて小さかった。

「あ、今野くんのケガは軽い打撲だぼくだったようです」

思いついたように言う藤巻先生に、校長先生が顔を向けた。

「お、連絡のあったとですか？」

「はい、ついさつき病院から電話がありました。鼻血はすぐに止まったし、骨にも異常はなかったと。今野くんは、迎えむかに来たお母さんと一緒にそのまま家に帰ったそうです」

藤巻先生の言葉を聞いて、ぼくの体からは一気に力がぬけた。リコーダーがぶ厚い布袋ぬのふくろに入っていたのは、ぼくにとっても今野にとってもラッキーなことだったのだ。

校長先生はやわらかな顔になって、

「それはよかった」

といい、母さんもほっとしたように大きく息を吐く。だけど藤巻先生だけは、

「時田さん、今回はこれですみましたけど、真潮くんがやったことに変わりはないんですよ。私も仕事をしながら子どもを育て上げたので、母親のたいへんさはわかるつもりです。しかも時田さんは、ひとりで真潮くんを育てていらっしゃるんですからね。でも、真潮くんとの時間をもっと

大切にすることはできませんか？」

と厳しい口調で言った。そして

「真潮くん、休み時間にはよくひとりで水槽のそばにいます。今日、ただ友だちと金魚を見ていた今野くんいきなり暴力をふるったのも、なんというか、さびしい気持ちの表れじゃないかと思うんですよ。だから、できるだけ真潮くんと一緒にご飯を食べて、ゆっくり話して、しっかりとだきしめてあげてください。そういうふうの生活を大切にすることが……」

と続く先生の言葉は、ぼくの耳からだんだん遠ざかっていった。

⑤ 正直なところ、何言ってんだろう、としか思えなかった。

ぼくは五年生になってまで、母さんにだきしめられたくなんてない。というか、そんなのちよつと気持ち悪い。

そもそもぼくが金魚を見に行くのは、生き物が好きだからだし、飼育委員としての責任もあるからだ。

ペット禁止のアパートに住んでいるぼくは、小さなときから犬やネコどころか、ウサギもインコもハムスターも飼ったことがない。せめて学校では生き物の世話をしたいと思って、五年生から始まった委員会活動で飼育委員に立候補した。メダカ係やハムスター係もいる中で、ぼくは金魚係に決まって、その世話を楽しんでいた。

それを『さびしい気持ちの表れ』だなんて、勝手に決めつけられたくない。

いつの間にか校内放送は終わって、昼休みになっていた。雨で外に出られないせいか、パタパタと走る誰かの足音や大きな笑い声が廊下にひびいている。

「ねえ、時田くん」

藤巻先生にいきなり声をかけられて、ぼくはしかたなく顔を上げた。先生は、閉じた口の両端りょうはしをきゅつと上げてうなずくと、

「腹が立つことや思い通りにならんことって、誰にでもあると思う。でも、暴力はぜったいにいかんよ。そんなこととつたら、取り返しがつかんようになる。将来、たいへんな人になってしまふよ。」

と言いながら、化粧品けしょうひんで黒く縁ふちどられた目を開いてぼくを見つめた。

たいへんな人って、どんな人のことだろう。ぼくは将来、ちゃんとした大人になれないのだろうか。

そう考えると、おなかの真ん中あたりがぞわぞわして落ち着かなくなってきた。藤巻先生に、大きな黒縁の目で呪いをかけられたようでこわかった。夕方、学校から帰ったぼくは、母さんに連れられて今野の家に謝りに行った。

おわびのしるしにと、途中のケーキ屋さんで買った焼き菓子のセットはびっくりするくらい高かったのに、母さんはその中でも大きな箱のものを選んでいたから、ぼくは今野より母さんに対して申し訳ない気持ちになった。

ケガをさせてしまったのはたしかにぼくが悪いけど、今野だってひどいことをしたのだ。だからあまり素直な気持ちになれないまま、それでもおこられるのはしかたないと覚悟して、今野の家の玄関ポーチの段を上がった。

ところが、ドアを開けて出てきた今野のお母さんはやさしそうな人で、母さんと並んで頭を下げるぼくに

「あの子、病院から帰ったとたんにカップラーメンを食べて寝てしまったんよ。そんなふうやけん。あんまり気にせんでね」と、笑ってゆるしてくれた。

母さんもぼくをしからなかった。だけど家に帰るとすぐ、台所のテーブルにつぶして泣きだした。

ぼくは、母さんの小さな泣き声と雨の音を聞きながら、台所の椅子の上でひざをかかえて背中を丸めた。こんなことになってしまった理由をちゃんと説明したかったけど、泣いている母さんに声をかけることができなかった。そして時間がたつにつれ、今さら何を言っても無駄な気がしてきた。理由が何だろうと、ぼくがやったことに変わりはないのだから。

（中山聖子『この手はいつか』より一部改変）

問一 ―線①「体中の血がずっと冷たくなるような気がした」とありますが、これは「ぼく」のどのような気持ちを表していますか。その説明

としてもっともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 普段は金魚に無関心なのに、仲間うちで盛り上がるために金魚をからかっている今野たちへの軽蔑^{けいべつ}。

イ 大切に世話をしている金魚が、消しゴムのカスによって死んでしまうかもしれないという恐れ^{おそ}れ。

ウ 金魚が繊細^{せんさい}な生き物であることを知らないで、ふざけている今野たちの無知な様子へのあきれ。

エ 気を付けて育てている金魚を、消しゴムのカスを食べさせる今野たちから守れなかったことへの怒り。

オ 今野たちが消しゴムのカスを金魚の水槽に入れていることに、はやく気が付けばよかったという焦り^{あせ}。

問二

I に入る言葉としてもっともふさわしいものはどれですか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ユニーク イ マイペース ウ スマート エ デリケート オ フレンドリー

問三

II と III に入る言葉としてもっともふさわしいものはどれですか。次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。（ただし、そ

れぞれの記号は一度しか使えません。）

ア ぱつと イ ぴくりと ウ ぷつかりと エ ぽかんと オ ほんやりと

問四 ―線②「面倒くさそうに」と。」の表現方法について説明した次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この部分は、「別にいいやん、金魚くらい」と面倒くさそうにぼくを見ていったのだ。」ではなく、「面倒くさそうにぼくを見ていったのだ。」「別にいいやん、金魚くらい」となっています。このような表現方法を、A法と言います。この表現から、B効果が得られると考えられます。

(1) Aに入る言葉を答えなさい。

(2) Bに入る言葉としてもっともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア その発言にぼくが疑問を持ったことを示す

イ その発言にぼくが深く傷ついたことを印象付ける

ウ その発言にぼくが強い衝撃を受けたことを強調する

エ その発言をぼくが理解できていないことを示す

オ その発言をぼくが真剣にとらえたことを表す

問五 — 線③「ぼくは何も言わないまま目をそらした」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっともふさわしいものを次の中から

一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分がどのように暴れたのかあまり覚えていないほど興奮して感情的になっている状態で、理由をうまく説明できる自信がなかったから。

イ ただでさえ話すのが得意ではないのに加え、大谷先生に「信じられん」と言われたため、信じてもらえるように上手に説明するのは無理だと思ったから。

ウ 話すのが苦手なため、大谷先生の質問に上手に答えられないと感じたうえ、話している間に自分も泣いてしまうことをさけたかったから。

エ 理由を説明するために話すとき涙が出てしまいそうで、床に座りこんで泣いている今野のように情けない姿は見せたくないと思ったから。

オ 大谷先生に「こんなことをするなんて」と言われ、自分が一方的に責められたと感じ、上手に説明して誤解を解くのは難しいと思ったから。

問六

IV

に入る言葉としてもっともふさわしい言葉を、文中から五字以内でぬき出して答えなさい。

問七 — 線④「ぼくは、まじめな働きアリの列から一匹だけつまみ出されたアリンコみたいだ」とありますが、これは「ぼく」のどのような様子

子のたとえですか。その説明としてもつともふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 楽しい校内放送のクイズに皆と答^{みな}えたいのに、校長室では一緒に考えてくれる人がおらず、疎外^{そがい}されていると感じている様子。

イ クラスの皆は机をくっつけて食べているのに、きつと自分の机は班にされずに取り残されているだろうと、さびしく感じている様子。

ウ 今までは皆よりもまじめに飼育委員の仕事をしてきたのに、たった一度のあやまちで皆の輪から追放されていると感じている様子。

エ クラスメイトは教室で皆と楽しく給食を食べているのに、自分は校長室で昼食をとらなければならない、孤独^{こどく}を感じている様子。

オ 楽しいはずの給食の時間なのに、校長室に連れてこられ、お母さんが来るまで一人で待たなければならないのを心細く感じている様子。

問八 — 線⑤「正直なところ、何言っただろう、としか思えなかった」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちを一〇〇字程度で説明しなさい。

問九 この文章から読み取れる「ぼく」の人物像としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア けんかをほとんどしたことがない、おとなしい人物。

イ 自分の気持ちを言葉にするのが苦手な内向的な人物。

ウ 生き物が好きで、金魚を大切に作る心やさしい人物。

エ 金魚の死を自分の責任だと感じるまじめな人物。

オ 自分の行動を後悔^{こうかい}して、反省できる素直な人物。

問十 この小説を読んだある生徒は、五感を意識した表現がこの小説に数多く使われていると考えました。次の文章は、その生徒が考えたことを

発表するための原稿です。本文の読解として、ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

私はこの小説の中に、五感を意識した表現が使われていると考えました。今から一つずつ紹介し、その効果についても発表します。

ア まずは、「視覚」です。血の色は赤だと分かっているのに、「金魚の赤よりずっと濃い赤色だった」と描写することで、血の赤色を金魚の色と比較しています。このように描くことにより、「ぼく」が金魚のために暴れたことを強調していると考えました。

イ もう一つ、「視覚」についての表現があります。「化粧品で黒く縁どられた目」「大きな黒縁の目」です。これらの表現から、「ぼく」が藤巻先生の目を不気味に感じ、まともな大人にならない将来が定められたように思ってこわくなる様子が読み取れます。

ウ 二つ目に、「味覚」です。「ちっとも味を感じられない」という表現からは、「ぼく」が初めて人をなぐってしまったことや、クラスから離れて校長室に連れて来られたことで、気持ちが落ち着いていない様子が感じられます。

エ 三つ目は、「嗅覚」。「母さんからは、すん、と冷たい雨のにおいがした」という表現です。「雨のにおい」を描くことによって、母が雨の中を濡れながら来てくれたことを感じながらも、申し訳なさから母を見ることができない「ぼく」の様子を表していると考えました。

オ 最後に、「聴覚」です。「母さんの小さな泣き声と雨の音」と表現することで、雨の音に母の泣き声が重なり、場の静けさが引き立てられています。これによって、母のやるせなさや「ぼく」の母に対する罪悪感を含んだ、この場面全体の悲しさが感じられます。

〔三〕

次の(1)、(2)にそれぞれ答えなさい。

(1) 次のことわざ、慣用句が同じ意味になるように、 にあてはまる語句を答えなさい。

① にうでおし にくぎ

② に真珠 に小判

③ 百歩 の背比べ

④ も木から落ちる 弘法も の誤り

(2) 次の――線について、カナカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ改めなさい。

① ソッセンして働く。

② ハイカンリヨウが値上がりする。

③ 品物の代金をハラう。

④ 成功するコウサンが大きい。

⑤ あいさつをカわす。

⑥ 校旗を揚げる。

⑦ 学校の沿革を知る。